

令和7年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立遊子小学校

1 自己評価書

教育目標	「ふるさとを愛し、たくましく生きる児童の育成」					
基本方針	○自分の設定した目標に向かって努力する児童の育成に努める。 ○地域の教育資源を最大限に生かすふるさと教育の充実を図りながら、保護者や地域と連携協働することで、地域とともにある持続可能な学校を推進する。					
本年度重点目標	○ 将来の姿を共有しながら、一人一人の可能性を伸ばす ～「遊子っ子 あいうえお」の具現化～ あ 気持ちのよい挨拶や適切な反応などを通して、当たり前のことが当たり前にできる態度を育て、よりよい人間関係の構築を目指す。 い 「自分の命は自分で守る」を合言葉に、学校安全教育の充実を図るとともに、安全・安心で充実した教育環境の整備に努める。 う 目標に向かって粘り強く取り組み、運動・勉強で達成感を味わえるように努める。 え 様々な交流・体験活動を充実させることで、いじめや不登校のない笑顔あふれる学校づくりに努める。 お 遊子の自然や歴史、産業など、地域の教育資源や人材を活用した体験活動に取り組むことで、ふるさと遊子を思いやる子を育てる。					
評価項目	評価小項目		評価の観点		評価資料	評価 評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。		・分析資料の作成	B 後期のみのみ
					・具体的な対策の実施	B
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート	B	A
				・保護者アンケート	A	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・児童生徒アンケート	A	A
				・教師アンケート	B ↓	
		一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・児童生徒アンケート	A	B	
			・教師アンケート	B		
			・保護者アンケート	B		
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・児童生徒アンケート	A	A
				・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	A	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・児童生徒アンケート	A	B
				・教師アンケート	B ↓	
				・保護者アンケート	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・児童生徒アンケート	A	A
				・教師アンケート	A	
・保護者アンケート				A		
(成果と課題)青文字前期 黒文字後期						
○成果(前期)						
・国語科、算数科の授業の最初に復習からする。前時の学習を忘れていた児童が復習によって思い出し、定着につながっている。						
・ねらいは提示することができた。読書の声掛けもできた。						
・児童の実態に合わせて、学習形態を工夫したり教材の準備をしたりした。						
・iPadを利用した学習を進めようと意識することはできた。						
・複式学級なので細切れ時間をうまく使う方法として、実践をしていきたい。						
・複式解消で、学習の定着度が上がった。						
(後期)						
・様々な手立てにより、児童の力は伸びていると思うが、確かな学力の定着に向けては、更なる改善が必要だと思う。						
・日々授業改善に努めている。						
●課題(前期)						
・応用問題に対応できてない。						
・エイリスの学習に関する活用はできていない。また、学習内容の定着が難しく反復練習をしていく必要がある。						
・今年度の標準学力調査は、1月実施予定。昨年度の本校の児童の実態を基にして学力向上を進めていかなければならない。						
(後期)						
・単元末のテストではできても、学期末や学力テストになるとできない。忘れるものとして、解き直しや反復練習で定着を最後まで図りたい。						
・児童の実態や家庭環境等から、主体的な家庭学習に至っていない。						
・学習の個別最適化が図れる人数なので、エイリス、すららなどどの場面で使うといいという情報共有を行い、適度な活用を図れるとよいと思った。たくさんありすぎるし、どのくらいの成果が上がるのかまだまだ未確定な部分が多いと思う。						
(改善策等)						
(前期)						
・児童自身が問題を作ってみてみんなで解く活動を行う。						
・授業以外の学校での学習時間が少ない分、授業中に練習問題にあたる時間を長めにとる必要がある。加えて、朝の時間も活用して計算や漢字は反復練習していきたい。						
・読書については、保護者アンケートから十分に達成しているとは言えないと思われる。無理強いして読ますものでもないだろうが、声掛けだけではなく、具体的な取組を進めていきたい。						
・単元テスト等で、児童の実態をしっかりと把握する。						
・タイピングや音読やその他効果のあるものを、短い時間で継続して取り組むことが大切だと思う。						
(後期)						
・ICTなどを活用して、補充学習の使い方を工夫し、個別最適な学びができるといいのでは。						
・学校で、家庭での学習の仕方を何度かさせたり、宿題をいくつか提案したりする。						
・授業を早めに進めて、補充的な学習を心掛けていく。						
・短時間の積み重ねを大切にしていこう。話す聞くスキルは継続して取り組むとよいと思う。できれば全校で取り組めるといい。						

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
				・児童生徒アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・児童生徒アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	A	A
				・児童生徒アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った（自分にはいいところがある）。	・教師アンケート	A	A
				・児童アンケート	A	
			自己有用感（人の役に立っている）や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B	
				・児童アンケート	A	
	（成果と課題）青文字前期 黒文字後期					
○成果（前期）						
・終わりの会で「きょうのびかりさん」の発表を行い、お互いに感謝の気持ちを伝え合い、自己有用感を高める活動を行っている。						
・全体での共有により、児童の問題行動や心配な児童に即対応できている。						
・なかよしアンケートの取組は、とてもいいと思う。						
・全校体制で教育相談を行っている。						
（後期）						
・様々な手立てにより、挨拶等の改善ができていると思う。						
・外部との連携については、その必要がなかったため、評価が難しい。						
・教育相談の時間をしっかり確保し、教職員全体で児童の実態を理解している。						
・挨拶運動に取り組む児童が増えている。						
●課題						
（前期）						
・少ない人数の学校で声掛けは毎日できているが、賞賛が毎日全員にできていないので、具体的に何が良いか伝えながら褒めてやりたい。						
・自分から他者のために積極的に動く児童が少ない。挨拶の声がまだ小さい。						
・みんなが優しすぎるため、遊子小以外の厳しい環境に身を置いたときに、必要なたくましが育ちづらい点が課題だと思う。						
（後期）						
・不登校や学校しぶりはなく毎日楽しそうに登校している。ただ、不満がないわけではない。						
（改善策等）						
（前期）						
・賞賛を増やしていく。特に、高学年は全校の前でしっかりと褒めて、リーダーとして活躍する喜びを感じさせてあげたい。						
・些細なことでも自分から考え行動できた時は、称賛する。教師から大きな声で挨拶する。						
・自分の考えや気持ちを適切に伝えられるように、場の設定を工夫したらいいと思う。						
・会釈など、一つ目玉を作って取り組むのもよい。						
（後期）						
・不満は、小さいうちに聞いて引き続き対応していきたい。特に来年度の高学年は注意が必要だと感じるので、最高学年へ向けて指導していきたい。						
・学校内だけでなく、学校外でも元気な声で挨拶ができるように声掛けをしていきたい。						
・このまま継続していけばいいと思う。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。（枠を移動しました。）	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
	（成果と課題）青文字前期 黒文字後期 ○成果（前期） ・朝の日直の仕事、校時表や放課後の活動が工夫されている点があるがたい。 ・todoリストを作り、仕事の優先順位をつけて行っている。 ・人数が増えたことにより、業務内容が減り、前年度に比べて時間外勤務が少なくなった。 ・職員室内が明るく、働きやすい。 ・昨年度よりは、早く退勤できているのではないかな。 ・人員増の影響は大きい。 （後期） ・充実した人員配置により、時間外勤務の時間が削減した。 ・見通しを持って仕事に取り組むことによって、必要に応じて担当者に事前に声掛けをしながら、無理なく業務を進めることができた。 ・スクールサポートスタッフに仕事ををお願いすることで、仕事の軽減が図られた。 ・教員数が多くなり、ずいぶん働きやすくなった。 ●課題（前期） ・自分自身の残業時間は超えていないが、それは他の教職員に負担が寄っているから。できることは積極的に行いたい。 （後期） ・来年度に向けての改善点等を個々に出し合いながら、来年度につなげていくようにしたい。 ・来年に向けて、できる業務内容の見直しを図る。					
（改善策等） （前期） ・「来年度もこのままでよいかな」という視点を持ち、行事などが終わったら来年度に向けて文書等の訂正をしておく。 （後期） ・来年度に向けての改善点等を個々に出し合いながら、来年度につなげていくようにしたい。 ・来年に向けて、できる業務内容の見直しを図る。						

評価項目

評価小項目

評価の観点

評価資料

評価

評価

地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	

(成果と課題)青文字前期 黒文字後期

○成果

(前期)

・学校運営協議会に児童が参加したのはよかった。

・熟議に児童を参加させたのはよかった。地域の方の協力は本当にありがたいと思う。

・例年良好である。

(後期)

・協力的な保護者、地域に支えられ、充実した教育活動ができることが、ありがたい。

・地域とのつながりが強い学校だと感じた。前期同様、これを引き継いでいく必要がある。個人懇談も2回あり、直接児童の評価を伝えられるのはありがたい。

・地域の方々の協力を得ることで、児童に様々な体験活動を行わせることができた。

●課題

(前期)

・自分がやったというより、管理職を中心に学校としてできているという評価。自分もしっかりと受け継いで今後も続けていけるようにする。

(後期)

・連携しすぎて大変な面もあるのではないかなと思う。

・地域との連携は管理職のおかげでできている。ただ、困難な案件が持ち込まれることがあり、不安材料である。

(改善策等)

(前期)

・改善策は思いつかない。誰が何をしてくれているのか、覚えていきたい。

・学校運営協議会での熟議で、まだまだ児童の発言が少ないとの御指摘があった。今後も、様々な場面で話す機会を持たせ、児童を鍛えていきたい。

(後期)

・今年度、大きく体勢が変わったが、大きな混乱なく教育活動を進めることができている。来年度は、蔦淵小学校区と統合し、更に校区が広がる、それに伴う連携のあり方について運営協議会等で話し合いの場を持ち、地域と連携してよりよい学校教育を推進していけるように取り組みたい。

・学校運営協議会のメンバーが一新されるため、今後にも期待したい。

(学校運営協議会の方より)

(前期)

・愛媛新聞「俳句キッズ」で遊子小学校をまるごと取り上げての掲載。素直で明るい俳句をうれしく読ませてもらった。児童が、楽しく充実した毎日を過ごしている様子がうかがえる。俳句づくりを通して、自然や人に対する豊かな感性を育ててほしい。

・「ふるさと教育」で、地域を知るということで、さっそく、全学年で下波での活動を取り入れていただき、ありがたかった。今後も学年に合った遊子・下波・蔦淵の3地区を含めた遊子小学校ならではの「ふるさと教育」を推し進めてほしい。

・これからも、人、もの、ことを大切にしたい教育をしていただきたい。

・少人数ではあるが、子どもたちが生き生きとしていて、活気がある。

・子ども自身の特性や性格もあるだろうが、先日の会での児童と地域の人の話し合いでは、先生が主導になっている。児童を会に参加させるのであれば、子どもがワークショップなどでもっと力をつけて行うほうがよいのではないかなと思う。まだ、小学生であるので難しいならば、小学生ができる範囲での参加の仕方でもよいと思う。

・遊子小学校に来てもらえるように呼び掛けたり、小学生の名前を覚えてもらえたりする工夫もあるとよい。

・運動会やイベント時には、遊子8枚、下波8枚、JA2枚、漁協2枚、郵便局2枚の計22枚のポスター掲示をしては。

(後期)

・学習発表会が今までとはちがいが、一人一人が発表内容を覚え、大きく表現できていてとてもよかった。1・2年生は、ことわざ発表で、お客さんから「おすごい」とどよめきが起きていた。3・4年生は、自信がついたことがうかがわれ、ダンスもうまかった。日常生活の見直しにより、今後、親との話し合いでよりよい方向に進む気がする。5・6年生は、最後の発表で笑いがあがりながらも、環境問題に取り組み、常にいろいろなことにチャレンジしている姿がとてもよかった。ひきつけられた1時間半だった。

・学習発表会では、1、2学期にふるさと教育で学習したこと、人権・同和教育で学習したことなどをまとめてうまく発表に結び付けられていた。学習したことを発表する機会を通して、児童の理解も一段と深まったのではないかなと思う。児童の発表の態度もよく、声もよく出ており、笑いが起こったり、拍手が出たりして、大変充実した楽しい発表会だった。

→今年度の学習発表会では、各学年がこれまでの学びの成果をまとめて発表することができ、いただいた感想にもそうした内容を書いていただいていた。しかし、学校評価の教師のアンケート結果からも分かるように2学期は行事が立て込んでおり、落ち着いて授業に取り組む体制が作れなかった。改善策としては、発表を3学期の2月の参観日に合わせて実施し、規模も縮小して対応したいと考えている。

・行事のたびに学校の方から下波にも参加の呼びかけをしていただいたが、お応えすることができず、残念だった。来年度は、蔦淵も一緒に校区が広がり、学校の対応もますます大変だと思うが、各公民館との連携を密にして、地域との交流を図ってほしい。また、学校の発信はこれまでどおり続けてほしい。

→来年度は、蔦淵との統合があり、更に校区が広がる。そのため、学校運営協議会委員を3地区から選考して、地域の情報や御意見をいただきながら対応していきたいと考えている。今年度同様に、各地域へは同じように情報発信を行い、少しでも地域の方に学校行事に参加していただいたり、児童が地域行事に参加したりできるように取り組んでいきたいと考えている。